

平成 27 年度八戸市復興計画推進市民委員会意見への対応状況 (平成 28 年 5 月末現在)

3. 都市基盤の再建

市では平成 27 年度に八戸市復興計画推進市民委員会を 4 回開催し、委員の皆様から御意見をいただきました。

本資料は、「3. 都市基盤の再建」への御意見に対する平成 28 年 5 月末現在の市の対応状況についてとりまとめたものです。

なお、対応状況は、下記区分のとおりです。

【対応状況の区分】

- ＝意見をふまえ対応に努めている
- △＝意見を参考に検討段階
- ×＝意見への対応が難しい

復興計画全体に関する総括意見

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
1	各対応状況 のとおり	「都市基盤の再建」については、八戸港の防災機能の強化やコンテナターミナルの早期拡充に努めるとともに、低床バス車両の導入や乗り継ぎの利便性向上など、利用者の視点に立ったバスの利用促進施策を推進すること。	【港湾河川課】 【都市政策課】 【運輸管理課】
		◎八戸港の防災機能の強化について 【港湾河川課】 意見No.10 で回答	
		◎八戸港のコンテナターミナルの早期拡充について 【港湾河川課】 意見No.9 で回答	
		◎低床バス車両の導入の推進について 【都市政策課、運輸管理課】 意見No.19 で回答	
		◎バスの乗り継ぎの利便性向上について 【都市政策課、運輸管理課】 意見No.17 で回答	
		◎利用者の視点に立ったバスの利用促進施策の推進について 【都市政策課、運輸管理課】 意見No.5 で回答	

復興計画に掲げた4つの基本方向ごとの意見

3 「都市基盤の再建」に関する意見

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
2		市街地の整備については、より美しい街並みを確保するため、空き家の現状を把握し、景観上や防犯上の問題がある空き家の適正な管理と利活用を推進するとともに、空き家のリフォームに対する支援策を検討する必要がある。	【建築指導課】 【建築住宅課】
	各対応状況 のとおり	◎空き家の現状把握及び景観上や防犯上の問題がある空き家の適正な管理と利活用の推進について 【建築指導課、建築住宅課】 意見No.6・8 で回答 ◎空き家のリフォームに対する支援策の検討について 【建築住宅課】 意見No.7 で回答	
3		港湾の整備については、八戸港のコンテナ貨物取扱量が年々増加していることから、コンテナターミナルの早期拡充に努め、国際物流拠点港としての機能充実を図る必要がある。	【港湾河川課】
	○	意見No.9 で回答	
4		道路・公園・下水道等の整備については、避難道路の通行の安全性確保に努めるとともに、道路や橋梁等の構造物の老朽化対策を関係機関の連携により進める必要がある。	【道路維持課】
	各対応状況 のとおり	◎避難道路の通行の安全性確保について 意見No.11 で回答 ◎関係機関の連携による道路や橋梁等の構造物の老朽化対策の推進について 意見No.12 で回答	
5		公共交通の維持・確保については、低床バス車両の導入や乗り継ぎの利便性向上など、利用者の視点に立ったバスの利用促進施策を推進するとともに、乗務員の接客サービス向上や利用者のマナーアップのための方策を検討する必要がある。	【都市政策課】 【運輸管理課】
	各対応状況 のとおり	◎低床バス車両の導入の推進について 意見No.19 で回答 ◎バスの乗り継ぎの利便性向上について 意見No.17 で回答	
	○	◎利用者の視点に立ったバスの利用促進施策の推進について 当市の交通施策のマスタープランは利用者からの意見を取り入れ、とりまとめており、さらにWeb版かいぜん意見箱を設置するなど、利用者目線での施策に取り組んでおります。(平成27年6月より実施)	
	各対応状況 のとおり	◎乗務員の接客サービス向上や利用者のマナーアップのための方策の検討について 意見No.16・20 で回答	

個別の施策・事業に対する意見

3 「都市基盤の再建」

(1) 市街地の整備

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
6		空き家対策について、より美しい街並みを確保するため、現状の把握と今後の人口増減を予測し、10年後、20年後の街並みを見据えた施策を検討する必要がある。	【建築指導課】
	△	<p>空き家の現状把握については、各町内会で把握している危険な空き家についての情報提供を依頼し、現状把握に努めています。</p> <p>施策の検討については、「空家等対策の推進に関する特別措置法」に則り、衛生・景観・保安上の対応も含め、関係課との協議の場を設けることを検討しています。</p>	
7		空き家の流動化を促進するため、空き家のリフォームに対する補助金など、支援策を検討する必要がある。	【建築住宅課】
	×	<p>空き家の管理は一義的に所有者の責任であり、市では、所有者責任に関する意識啓発、及び適切な相談体制の構築が最優先事項と考えております。</p> <p>また、金融機関のリフォームローンも充実してきていることから、現時点では補助金などの支援策は必要ないものと考えております。</p>	
8		老朽化し危険な状態の空き家のみならず、景観上や防犯上の問題がある空き家についても、適正な管理と利活用を推進する必要がある。	【建築指導課】 【建築住宅課】
	△	<p>【建築指導課】 意見No.6 で回答</p> <p>【建築住宅課】 空き家の利活用にあたっては、耐震性が確保されている等の条件を満たした、安全な建物を提供する必要があると考えていますので、市では、一般社団法人移住・住み替え支援機構が運営しているマイホーム借上げ制度の活用により、空き家の利活用を推進してまいります。</p>	

(2) 港湾の整備

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
9		コンテナ貨物の増加に伴い、現在のコンテナヤードの狭隘化が著しくなっていることから、八太郎2号埠頭南側の埋立て・拡張工事の早期完成が必要である。	【港湾河川課】
	○	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度より、八太郎2号埠頭南側において、国が航路・泊地の浚渫により発生する土砂の処分場を整備しています。 平成27年度に護岸整備が完了し、平成28年度に埋め立てを開始、年度内に完成予定です。 平成29年度に県がコンテナヤードの拡張整備を予定しています。 	

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
10	八戸港について、近隣国へのゲートウェイとして港湾施設の整備を促進し、国際物流拠点港としての機能充実や防災機能の強化を図る必要がある。		【港湾河川課】
	○	<p>国、県が以下のとおり港湾整備を実施しています。</p> <p><国際物流拠点港としての機能充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央第1防波堤、中央第2防波堤整備(国) ・航路・泊地(-14m)整備(国) <p><防災機能の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川船だまり防砂堤整備(県) ・八太郎1号埠頭埠頭用地嵩上げ(県) ・八太郎2号埠頭受変電棟津波対策(県) ・八戸港津波高潮対策(県) ・八太郎緩衝避難緑地嵩上げ(県) ・河原木地区漂流物防護柵整備(県) <p>また、八戸港の整備促進と国際拠点港湾の指定について、国、県に対して毎年要望活動を実施しており、今後も継続していきます。</p>	

(4) 道路・公園・下水道等の整備

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
11	道路の側溝にふたを設置し、通行の安全性を確保する必要がある。		【道路維持課】
	△	<p>ふたが設置されていない側溝には、維持管理上、ふたを設置できない農業用水路等もあり、現地調査が必要です。よって、地域からの要望があれば、検討していきたいと考えています。</p>	
12	道路や橋梁等の構造物の老朽化対策について、関係機関の連携により長寿命化を図る必要がある。		【道路維持課】
	○	<p>道路は、平成26年11月に公表した「道路維持の方針」に沿って、健全な道路となるよう、修繕を実施しています。</p> <p>また、橋梁は、平成23年4月に「八戸市橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、平成25年度より計画的に修繕を実施しています。</p>	

(5) 公共交通の維持・確保

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
13	高齢者のカード発行の手間やカード枚数の削減のため、保険証・住基カード等にバス乗車証機能を持たせるなど、柔軟な発想での取組を検討する必要がある。		【都市政策課】 【運輸管理課】
	×	<p>住基カードはマイナンバーカードに移行。保険証等へのバス乗車証の付与は市だけで決められる問題ではなく、難しいものと考えています。</p>	
14	ICカードや乗り換えチケットの導入、乗り継ぎ乗車制度の導入、22時台に中心街を出発するバスの運行など、利用者の利便性を高める施策を検討する必要がある。		【都市政策課】 【運輸管理課】
	△	<p>国の出資事業を活用したICカード導入可能性について、今年度検討したいと考えています。</p> <p>深夜バスは平成23年度に実証実験を行い、週末運行の場合採算が合うとの結果が出ていますが、深夜の労働力が確保できず、運行できない状況にあります。</p>	

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
15		中心街バスターミナルでは、1箇所では各方面別のバス停の場所が把握できないなど、利用客に対するホスピタリティが十分とは言えないため、その対策を検討する必要がある。	【都市政策課】 【運輸管理課】
	○	平成22年度に中心街の主要な5箇所のバス停の呼称を中心街ターミナルに変更し、来街者にわかりやすい標柱に改修しました。各バス停の位置図、各バス停から出発する方面別路線について標示しています。 また、はっちインフォメーションで中心街ターミナルのリーフレットやバスマップを配布し案内しています。	
16		バス乗務員の接客サービス向上のため、接客の基本をマニュアル等により身につける研修等を実施する必要がある。	【運輸管理課】
	○	毎年、全乗務員を対象に内部研修で接客を取り入れているほか、今年度は外部講師を招いての接客研修を実施しました。	
17		当市への旅行者を増やすため、バスの乗り継ぎの利便性向上を図るとともに、バス、青い森鉄道、JR八戸線へ解体等をせずに自転車の持ち込みが可能となるよう、方法等を検討する必要がある。	【都市政策課】 【運輸管理課】
	○	◎バスの乗り継ぎの利便性向上策の検討について 当市のバス路線は最低1回の乗継で市内各所に移動可能となるように設定しており、乗継利便性を確保するため、八戸駅や中心街などの主要乗継拠点での案内機能強化に取り組んでいます。 なお、乗継割引が設定しやすくなるICカードの導入可能性について今年度検討したいと考えています。	
	×	◎解体等をせずに自転車の車内持ち込みを可能とする方法等の検討について 観光課がJRに確認した際には、駅の構造上及び車両構造上、対応不可能との回答でありました。 自転車旅行者への対応は市外からのネットワークの連続性、受入体制など交通だけでなく、観光施策としての大局的な検討が必要です。	
18		バスをPRするため、リベットのバス(年式の古いバス)の活用など、独自の取組を検討する必要がある。	【都市政策課】 【運輸管理課】
	△	約6割を占める老朽化車両の更新(結果として低床バス化)が直近の課題であることから、新車両導入とあわせてバスのPRができないか検討していきます。	
19		利用者に優しい公共交通を推進するため、引き続き、低床バス車両の導入を推進する必要がある。	【都市政策課】 【運輸管理課】
	○	平成27年度は市営バスが15台導入するなど、事業者が導入推進に努力しているところです。なお、導入加速には財源が課題であり、国の支援策の活用についても検討していきます。	
20		バス停に整列用の線を表示するなど、利用者のマナーアップのための方策を検討する必要がある。	【都市政策課】 【運輸管理課】
	△	整列用の線で効果があるか利用者が多い中心街ターミナルで実験する方向で商店街と調整した結果、条件を提示されており、対応可能な方法を検討しています。	
21		市民の防災意識の向上を図るため、災害時の公共交通機関の連携体制等を定めた「八戸市災害時公共交通行動指針」の周知に努める必要がある。	【都市政策課】
	—	当指針は公共交通関係者間の連携体制を定めたものです。 災害時には、交通事業者や関係機関が相互に連携・協力し、迅速かつ臨機応変な公共交通サービスの提供に努めてまいります。	